



吉子川



令和6年10月3日(木)
 学校だより NO. 36
 中島村立吉子川小学校
 発行責任者 校長 木戸美智子

【めざす児童像】

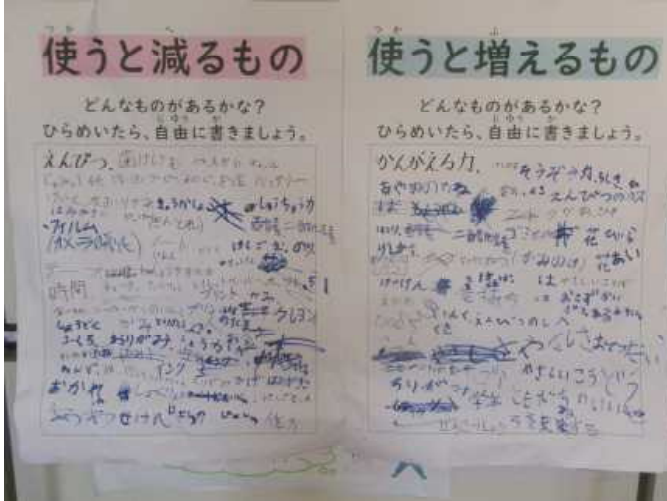
- あかるく たくましい子ども (体)
- やさしく おもいやりのある子ども (徳)
- めあてをもって がんばる子ども (知)

【よしコッピ】

吉子川小学校
 のあやめの花に
 住む小鳥の妖精

今月のいきいき中島っ子 学びの
 十か条(10月)
 きまり、ルールは守ってあたり前
 落ち着いた環境で高まる集中力

◇ 使うとへるもの、使うと増えるもの ～全校集会「校長講話」～ ◇



今週初めから、児童昇降口に左のようなクイズを掲示し、子どもたちに自分の考えを自由に記入してもらいました。驚くほど子どもたちが自分の考えを自由に書き込んでくれました。初めての試みでしたので、掲示板記入の際のマナーが分からなかった子どももいましたが、この機会に指導することもできました。

子どもたちが書いた「使うと増えるもの」。なかでも 「想像力」、「優しさ」、「知識」、「あやめの種」、「友達のいいところをまねすること」などは、なかなかのセンスだと感じました。

全校集会「校長講話」の一部

「世の中には「使うと減るもの」と「使うと増えるもの」があります。(中略)

「体や頭は勝手に動くものではありません。そこには「よしやるぞ!」という意志、心のスイッチが必要です。だから体や頭を動かそうとする心も、使えば使うほど増えるものです。誰かに優しくしたり親切にしたりすると優しい心、親切な心が増えます。「心」のすごいところは、自分だけでなくほかの人の心にもそれがうつって増えていくことです。つらいときにがんばった心はつらいときにがんばれる心に成長します。がんばっている人を見ている人も自分もがんばろうと思えます。

6日の持久走記録会に向けて、月曜日は校長先生もすべての学年のみんなと走りました。走り続けることが楽ではないこと、きついことがよく分かりました。しかも、少しでも順位を上げようとか、去年の自分より記録を縮めてよい記録を残そうとか、自分をよりよくするための高い目標にチャレンジすればするほど、やりたくない自分、さぼりたい自分、なまけたい自分とたたかうこととなります。ライバルは、自分の心の中にいるから、ほかの人には見えません。弱い人は、いくらでもさぼれるんです。でも、月曜日、ほとんどの皆さんが、苦しくてもあきらめず、踏ん張って、一步一步、ゴールに向かって進み続けました。校庭にいるみんなもたくさん励まし、応援し、明るい声でその場を盛り上げてくれました。だから、走り終えたみんなの顔は、自然と笑顔になって声も明るくなりました。何より目が生き生きしていました。汗も輝いて見えました。校長先生は、みんなのプラスの心をもったから、すべての学年と走ることができました。もし一人だったら、合計9kmなんて走れなかったと思います。みんなのプラスの心のおかげで辛いことを乗り越えて、その場を楽しむ気持ちになれたんです。

では、逆だったらどうでしょう。(省略)

今年54人目の
 読書賞受賞者です!

4年読書賞 菊地 穂華さん

